



**IBARAKI TOYOPET  
RACING TEAM**

**GR86/BRZ Race  
PROFESSIONAL Series**

**初めて挑んだ北海道、十勝の2レースはしっかり完走  
ここで学んだ経験を、今後に活かすことを誓う！**

## **TOKACHI SPEEDWAY** (北海道)

プロフェッショナルシリーズ第5戦/第6戦

決勝 Race : 7月29~30日

会場 : 十勝インターナショナルスピードウェイ

天候 : 晴れ

第5戦 (10LAP) 予選 16番手/決勝 13位 (26台出走)

第6戦 (14LAP) 予選 21番手/決勝 16位 (26台出走)

ドライバー : 平木 湧也

チーフメカニック : 岡崎 保 (営業支援部)

メカニック : 古市 陽治 (日立田尻店)

メカニック : 安見 卓磨 (笠間大鳥居店)



GR86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズの第5大会が、今季初のダブルヘッダー大会として十勝スピードウェイで7月29~30日に開催された。茨城トヨペットレーシングチームの擁する平木湧也選手にとって、十勝は初めて走るサーキット。かつてスーパー耐久では24時間レースが開催されたり、創設期にはフォーミュラ・ニッポンなどが開催されたりしたものだが、現在はビッグイベントが一切行われていないからだ。

GR86/BRZ レースが開催されるようになって、十勝もシリーズの一戦に加えられ、ベテランドライバーでさえ「久しぶりに走った」というのだから、逆に言えば未経験であっても、他のサーキットよりは、差が生じにくいサーキットと言えるだろう。その一方で平木選手には、適応力の高さが試されることになる。

サーキットの特徴としては、北海道の雄大な大地を思わせるかのように限りなくフラットで、直角コーナーが多いことだ。ともすれば、どこを走っているか分からなくなることもないわけではなく、その意味において走りにはリズムを大いに要す。なお、かつてはフルコースでレースが開催されていたが、現在は最終コーナーより奥側のセクションは用いられず、クラブマンコースが舞台とされている。

平木選手にとって初めてのサーキットということもあって、走行開始は水曜日から。その後、金曜日にはウェットコンディションのセッションもあったが、着実に習熟していった、最終チェックともなる午後からの専有走行においては、トップからの差が1秒を切る、1分36秒501をマークして12番手につけていた。

なお、今回はダブルヘッダー開催ということもあり、特別規則でタイヤは予選から2回の決勝を通じ、6本まで使用が認められている。果たして「+2本」をどこで使うか注目されたものの、こと予選に関してはトリッキーな選択は誰も行わず。普段のようにワンアタック勝負となった。「茨城トヨペット86」を駆る平木選手は、コンディションに恵まれたこともあり、アウトラップで入念にタイヤへ熱を加えてアタックを開始。

果敢にコースを攻め立てた結果、専有走行同様トップから1秒以内におさめる1分36秒509をマークしたものの、そこはやはりプロフェッショナルシリーズ、猛者どもがズラリ並んで平木選手は16番手に。8列目から第5戦決勝レースに挑むこととなった。

「初めて十勝を走りましたが、テストの段階で少しずつ詰めていくことができ、僕としてはいい感触を得られていただけに、予選は普通に行けたのですが……。あとコンマ1、2秒詰められたら、もう少し前の方に入られたので悔いも残ります。どのコーナーも似た感じで、カントもついていないため、ブレーキングポイントも目印つけにくいし、距離感も分かりにくくて、もっとドライビングの精度を上げていかなければならないと思いました。そのあたりを課題として、決勝も頑張ります」と平木選手。

その予選から、わずか3時間あまり。土曜日のうちにさっそく10周で争われる第5戦決勝レースが行われた。タイヤは予選で用いたものをそのまま装着、引き続きコンディションはドライ。強い日差しが路面を照らす、気温は北海道らしく控えめで、見守る側としては過ごしやすいくらい。しかし、走らせる側としては、十分「熱く」なっていたようだ。スタートが切られると、いきなりコースの随所でバトルが勃発する。

そんな中、平木選手はオープニングラップのうちにひとつ順位を上げて15番手に。そして集団の中で周回を重ねていく。次の周にも、もうひとつ順位を上げ、さらに4周目には先行車両の後退もあって13番手に浮上する。なおも集団の中において、ここを抜ければ入賞圏内だったが、やがて4速、5速ギヤが入りにくくなるトラブルが発生。

そのため、レース終盤は単独走行となってしまいが、平木選手はしっかりポジションをキープ。13位でのフィニッシュを果たすこととなった。だが、序盤は集団の中で自分のペースで走れず、終盤はギヤトラブルのため、レースベストタイムは21番手に留まってしまふ。これが日曜日に行われる、第6戦決勝レースのスターティンググリッド決定要素に……。しかし、その厳しい条件の中から、平木選手がどこまで順位を上げてくれるか、大いに期待が込められた。

#### 平木湧也選手のコメント

「みんな普通に寄せてくるし、その中でぶつからずになんとか完走できましたが、レースラップがすごく悪くて……。路面温度が上がったせいか、オーバーステアが強くなったのと、途中からギヤが入りにくくなっていたのが理由です。ちょうど単独になったあたりからで、後ろも前も離れて、順位は保つことができましたのですが、もうちょっと競っている時に、うまく上がれなかったのは悔しいですね。この経験を今後に活かしたいと思いますし、初めてのサーキットで抜きどころもまだ分かっていないので、次のレースでしっかり勉強してきます。」



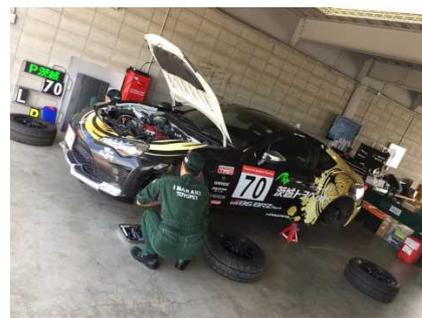
明けて日曜日にもドライコンディションは保たれ、14周で争われる第6戦決勝レースがスタートした。本来ならば、第5戦で不調を来したミッションは交換されるはずだったが、規定により認められず。そこでオイルを入れ替えて対処することに。また、ここで初めてニュータイヤを投入し、負担の大きい左側2本を改めていた。

スタート直後の1コーナーでアクシデントが発生。平木選手の駆る「茨城トヨペット 86」は回避こそできたものの、ひとつポジションを落としてしまう。しかし、1周を終えたところで赤旗が出されてレースは中断。元のグリッドから14周のまま、セーフティカースタートで仕切り直されることとなった。

平木選手の前方グリッドからは4台が欠けていたので、実質17番手からのレースに。2週のSC先導の後に切られたリスタートでのポジションアップは果たせずも、しっかり先行するライバルの背後に着いて、平木選手は逆転のチャンスを待つ。6周目の1コーナーで、ようやくそのチャンスが訪れ、前を走る脇阪寿一選手をかわして16番手にあがるも、7周目に、前の車両がコースアウトしたばかりかコースを横断！その際にフルブレーキングを要したため、逆に阪寿一選手にかわされてポジションを落とす。

その後、11周目にようやく1台をかわして、16番手に返り咲くこととなる。更に前に行くのは脇阪寿一選手。まだ86/BRZレースに慣れず苦戦を強いられているとはいえ、レジェンドドライバーを抜ければ、大いに自信にもなったはず。が、脇阪選手もミスを犯してはくれず、平木選手は16位でゴールすることとなった。

次回のレースは、ややインターバルを置いて9月2~3日の富士スピードウェイが舞台となる。86/BRZレースでもすでに走った経験を持ち、また併せて挑むFIA-F4では優勝経験もある、平木選手にとって得意とするコースで、ここまで重ねてきた経験がきっと活かされるはず。初の入賞にも期待がかかる。



### 平木湧也選手のコメント



不安だったミッションはなんとか持ちこたえてくれましたが、4速はダメでした。ギヤ入れると失速してしまったので。最初のスタートでは1コーナーで混乱があって、僕はうまく回避できたのですが、その時1台に抜かれてしまって。でも仕切り直しになったので、集中力を切らさずリスタート後はギヤの調子が悪いなりに、いいペースでは走れたと思います。ただ、中盤に1台を抜きに行ったら目の前で飛び出して行って、僕は普通に抜いたはずなのに相手がコースを横断してきて、ブレーキを踏んで失速してしまったので、その間に寿一さんに抜かれてしまったのはちょっと残念でした。初めて走ったコースで、本当はもっと上の方の順位でゴールできた

たら良かったのですが、今回は接触もなく、2戦とも完走できましたし、前回の岡山よりもトップとの差は縮まりつつあるように思います。次の富士は僕の得意なコースなので、そろそろ入賞を果たして皆さんの期待に応えたいです！

### チーム監督のコメント ～営業支援部 石川 一郎～



GR86/BRZ Race 第5大会 第5戦 予選16位/決勝13位、第6戦 予選21位/決勝16位でした。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。十勝サーキットは、ドライバーも、チームとしても初めて走るサーキットということもあり初日から走行を重ね車両のセットアップに全力を尽くしました。レースウィーク中、駆動系、ギヤ系のトラブルに見舞われましたが、アドバイザー、エンジニアの素早い判断・対応により予選・決勝に臨むことができました。今大会期間中、初日からいろいろありましたが、終始良い雰囲気です。レースを楽しむことができ、チームワークはとても良かったと思います。初めて走ったサーキットでしたが2戦とも完走。チーム、ドライバーともに今回学んだ経験を次戦にいかせるよう頑張ります。次戦は、富士スピードウェイで第7戦が開催されます。今後ともご声援、よろしくお願いいたします。

### チーフメカニックのコメント ～営業支援部 岡崎 保～



今回チーフエンジニアとして参加させていただきました。練習走行序盤では、車両のセッティングが合わずタイムが伸び悩みましたが、走行の度にセッティングを変え予選・決勝に臨むことが出来ました。また、今回参戦していただいた、古市さん、阿見さんの連携がすばらしく、整備を積み重ねるごとに「一秒でも早くコースに戻る」の気迫を感じ、工具の置き方、レイアウト、作業順序など変更を重ね、終盤では圧倒的速さで、整備をおえていました。一緒に整備が出来たことを感謝いたします。本当にありがとうございました。また、サポートしていただいた店舗の皆様、本当にありがとうございます。今後ともたくさんの参加をお待ちしております。

### メカニックのコメント ～日立田尻店 古市 陽治～



IBARAKI TOYOPET RACING TEAM を応援して頂いた皆様、店舗スタッフの皆様にご感謝申し上げます。今大会期間中、予選・決勝に向けての車両のセットアップや、レースの裏側の話など文章には書ききれない程、貴重な体験が出来ました。またこの経験を活かし、多くの方に、車の楽しさ、モータースポーツの楽しさを伝えていきたいと思います。今回ポイントが取れなかったのは、心残りでは有りますが、今後ポイント取ってくれる事を期待します。頑張れ！湧也、玲次！

### メカニックのコメント ～笠間大鳥居店 安見 卓磨～



IBARAKI TOYOPET RACING TEAM を応援して頂いた皆様、店舗スタッフの皆様、ありがとうございます。レース独特の整備、調整は普段の仕事とは違う緊張感がありとても刺激を受けました。又、セットアップなど初めての作業でも、丁寧に教えて頂けるので安心して作業ができます。レースウィーク中、現場の雰囲気がとても明るく、車の楽しさを再確認できた5日間でした。是非、多くの人にGR86/BRZ Raceに参加してもらいたいです！